

V ガンダム外伝あとかきパート2

さて、前のページの後書きは、そのまま収録されていますが、なんと17年前、初版が発行されたときに書いたものであります。いやはや。思えば遠くへ来たもんだ。っていうか、ぐるっと回って戻って来ている？ ご存知の方も多いでしょうが、その頃私は、「機動戦士クロスボーンガンダム」という「木星」を舞台とした漫画を連載させていただいておりました。ここでもその当時なりに（もちろん富野監督と相談し、意向もくんだ上で）自分としてのガンダムのテーマを一度完結させたつもりでおりましたが、そこが「蘇る、蘇るガンダム」！ たびたびゲームに取り上げていただいたことから、再び、三たびの復活とあいなり、短編集「スカルハート」、続編「鋼鉄の7人」編を経て現在さらにその続編、「機動戦士クロスボーン・ガンダム ゴースト」を連載中、なのであります。そして開始時にF91の10年後、UC133が舞台だった「クロスボーン・ガンダム」の作品内の時間は、蘇る都度進行し…「ゴースト」の舞台ではUC153、ザンスカール戦争時まで進んでしまったのです！ おお、なんと遠大な、まるで大河ドラマのような、輪でありましょか！ …いや、もちろん描き出した時はこんなことになろうとは夢にも思ってはいませんでしたけどさ（笑）

時が見えるってこういうことかい？ ララァ！ 何か、不思議な気分ではあります。

その都度、'完結編'を描いている、という立脚点は変わってはいません。そのつど、テーマは温存することなく吐き出しているつもりでいる。だが、時とともに、また違う、吐き出さなきゃならないテーマを、人は内にため込むものなのだな、というのを今、自分は体験しているのだろう。一度ずつ「完結」することでこそ、次へ進んで行けるのかもしれない、とも思う。この貴重な体験を用意してくれた「ガンダム」「宇宙世紀」という「場」に深く感謝をしている。そして感謝を返す方法はやはり、語りきる（もちろん、自分なりに、だが）しかないであろうな、と思う。え？ で、次は何を描く気なのかって？ はっはっは、それはもちろん！

「機動戦士クロスボーン・ガンダム ゴースト」に続く！ だ！